夕刊
磐城新聞
二月十八日發行
定價 一ヶ月 金六拾五錢（郵稅拾五錢）
廣告料 普通欄一行 金六拾錢（五號十二字詰）特別欄一行 金九拾錢 場所指定一行 一圓
編輯印刷兼發行人 鈴木 ― 福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
電話交換局略（タイラ イワキ）平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五六五五番

三吉さんと秋田杉（下）

中川化生

筆者は、かつて、この太平山々麓の森々たる秋田杉の林相の中に立つて、その伐木作業を見たことがある。樹齢數百年を算する一本の杉の大樹、その根本のあたりから…ZA-SU…ZA-SU…と一種の階調をなす靜かな音を傳へて一人の樵夫が、兩腕を上體と共に前後に引いて、大鋸を樹の肉へ〱〱と喰ひ込ませるともう一人の樵夫は、大鋸の反對側のやゝ下部を目がけて、一と握り一と握り斧を打ち込む……

杉はかすかに傾いてゆく……ばりッ！ばりッ！〱〱〱〱……倒れる杉の枝が、あたりに立ち並ぶ杉の枝にふれ、幹をゆるがし、恐ろしい響音をたてゝ四邊の靜寂を破る。……と同時に樵夫の哀調を帯びた聲が

『――マア……』

『――マア……』

と、叫ぶとこだまと共にやがて

『ど、ど、ど、ど、どう。……』と地ゆるがして杉は倒れる。樹が倒れるまでは一種の痛快さに醉ふ慘忍性をもつてゐた私の好奇心も杉が倒れる瞬間の、さながら亡ぶるものの靈魂の斷末魔の叫びのごとき物凄き歎音にある胸迫る哀愁にうたれる……。

杉は倒れると同時に、すぐさま熟練した樵夫の揮ふ長い柄の鉞によつて皮が剝がれ、褐色を帯びた白い肌をさらし、かくて杉は全くの屍となつて横たはる。

私は重い心を自らひきたてゝ、傍らの人に聞いたのである。

『あの、樵夫の、マア……マア……』と叫ぶのは何の意味ですか？』

『ウムあれは「入り山ア」といふのだ。

樹が山腹へ向つて倒れる場合は『入り山ア』で、反對に麓の方に倒れる際は『出山ア』と叫ぶ。つまり若し伐木の附近に他の樵夫が居る時、樹の倒れる方向を知らせて危險を除くための叫び聲だ』

『なるほど』

さつき聽いたときは、倒れる杉を弔ふ聲ではないかと思ふてゐた私は始めてうなづくのである。

『入り山ア。……出山ア……か』で、私の暗く閉ざされた重い心はやゝほがらかになり脚下はるかにむせぶ谿流の音が深々として耳によみがへるのであつた。

2月19日

△吉野落城（元弘三）△大鹽平八郎舌を起す（天保八）△海軍機空中衝突五名殉職（昭和一一）

哭吉田入山坑務所長

珠雲 小の務平

多年精勵事屏營
業績隆々有令聲
恨殺扁倉難癒病
一星斯歿夜鐘鳴

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北西の風晴
明日は北西の風晴 一時曇

千人針由來（六）

東國愁

斯の説は全く神話、傳説を作る者の定法であつて、假令[illegible]が川に臨んでをる大社であつたとしても、千勝が近津と變化したのではない、國語の變遷と言語の自然變化から觀ると、流宇が易はつたとして、例へば千勝を誤讀したところで、其の意は依然、漢字の音讀が通語となつた千勝そのもので、普通の言葉に用ひられるチカツそのものゝ謂ひに過ぎない。

要するに國史に顯著な常陸と陸奥の石都々都々古和氣神は固より其の創始は陸奥蝦夷（當時の植民地に住む土人で、まだ皇民とならぬもの）の征伐と馴服を祈る爲であつたことにならう。日本民が一朝國家に非常の事が起ると、千社參をなす慣例がある、千社參は換言すると戰捷（千勝）祈りで、之に付き物の千社札や、又千里往復の偶話も皆同意から生じた信仰的迷信に外ならぬ。

併しながら國家の婦女子が出征軍人の戰捷を祈り、凱旋を待つ爲、か弱い身體

◆……×……◆

平局俳黎會

一月句會

席題『新年人事』（四）

○たまさかの風追羽子をうばひ行く　石城
○追羽根の雨樋に入る夕かな　同人
○初夢に笑窪つくりて子の安し　水明
○非の衣[illegible]お萬歳　同人
○初夢路不二を求めて若さあり　同人

講談

悲戀 髑髏組（どくろぐみ）

(118) 林杢兵衛作　金子士郎畫

生か死（二）

『とすれば此のまゝうつちやらかして干乾にするか、それとも闇の中から斷ンで掛るか、突いて來るか』

『まづそんな事だらうが、何んにしてもこんなに暗くては分別が立たねえ』

二人は床へ腹這になつて暫らく、凝つと瞳を澄ました。その眼が暗さに馴れて來ると、幾分は薄明るく四邊の様子が判つて來た。

見ると、其處は、四方とも壁に圍まれた一部屋で、疊なら二十疊位は樂に敷かれる七間である。置いてある物は何もない。

中央に黒いかたまりがただ二つ。それは茂十と源七のうづくまつてゐる姿だつた。

源七は、濕つぽい床に耳をあてて、何物かの氣配を知らうとしてゐる。

『跫音が聞わる。矢の倉のお前の後ろの壁だ』

抑へつけるやうな小聲に囁かれて、茂十はそろ〱と背後の壁に這ひ寄つて行つた。

――とその壁の奥の方から、コッ、コッ、コツと石の階段でも降りて來るような、固い跫音が確に聞わて來る

『俺逹を殺しに來たんだ、どんな仕掛けがあるかも知れねえ』

源七は、尚も凝つと耳を澄ましてゐる。

屹度此の部屋へ水を張らせ。そうして溺れ死にをさせようて云根膽だ。どうも此の床が濕つぽい』

源七は緊張した眼で、壁の隅々を今更のやうに見廻した。

其處らに水の浸入する穴でもあいてゐはしないか？……と云つた眼つきだ。

跫音は、壁際まで降りるとピタリと止まつた。一人は身體の全神經をその壁の一點に集めて、何事が起るか――とその變化を見守つてゐる。

と、ことりと輕い音がして、壁の中央に五寸角位の小窓が開いた。光線が其處から眞ッ直ぐに流れ込んで反對側の壁にくつきりと灯影の桝を映した。部屋の中が俄に明るくなつたと思ふと、その窓口から

『芝の親分、矢の倉の覺分も、お久し振りで御座んすね。お怪我がねやうで何よりですね』

確かに、何處かで二三度聽き覺わのある聲だが、勘太ぢやない。小六でもない。茂十も、源七も共に耳底の何處かにこびりついてゐる語調であり、そうして聲音だ。――

『はて？』

『誰だ？』

聞ひ返すと

『親分、驚いちやいけませんよ、易孫の南岳堂、はつはゝゝ乘白で御座んすよ』

『うむ、確かに南岳堂、貴樣も髑髏の一味だつたのか――』

『さうで御座んすよ親分、今になつて氣が附くちや芝も矢の倉も、そろ〱焼が廻りましたね』

『で、俺逹を一體どうしやうと云ふのだ』

『首領の命令で、親分衆の生命を頂戴に參りやしたよ』

――

『貴樣がか？』

『左樣で……』

『二人でか？』

『左樣で……』

『俺逹は二人だし、武器には使ひ慣れた十手がある、貴樣一人の手には負へねえぞ』

『その御掛酌は御無用で御座んすよ。それは尋常の勝負ぢや、一人にだつて敵ひませんがね、その穴藏へ落ち込めば、いくら鬼神だつて袋の鼠、刀も槍も要らねンですからね』

廣告

高柳醫院
平市驛前通り 電三三六番

磐城の御みやげ品
物名 靈峰（みやま）羊羹（名産柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山（みやま）羊羹
同　七濱……のり羊羹
同　豐間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

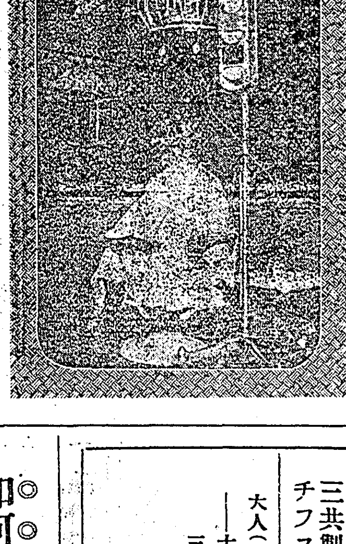
◎互融會事業報告 昭和十三年一月中
融通口數 八五口
融通金額 三、三九〇〇
滿期拂戻口數 八一口
滿期拂戻金額 四、三三〇、〇〇
概況昭和十三年一月末現在
會員數 八九六口
世帶數 五八一五戸
積立金額 一三一、三五八、八〇七
融通金額 一五五、三三八、六〇七
融通金回收高 七一、九〇三、〇〇
滿期拂戻口數 一七五〇口
滿期拂戻金額 三三、五三五、〇〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、税金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

石城中小商工互融會
事務所 福島縣平市搬槌小路一番地 電話五五五番
太平火災海上保險株式會社平中央代理店
小名濱方部 小名濱町古湊
湯本方部 湯本町天王崎
菊田方部 植田町置町
相双支部 原町東一番町

ニッポン。魚は原魚
日本水産 特約 小賣
平製氷會社 電三二八〇・三二一六番
甘鯛　エビ　マナ　白魚　帆立貝　ワカサギ　ウニ貝燒
ピンマル濱魚
本通店 四丁目
陸印魚問屋 電話二八番
遠方へ一尾一箱ヨリ發送致シマス。

御得意様への御禮に！
パーマネントウエーブは
今や：世界的流行であります



お値段（四圓…全部　三圓…普通）（榮院パーマネント部の一部）
水野化粧院
水野冬子
平市驛前 電六七八番
自宅 電五二五番

東北の銘釀
特撰 銘酒 嵐山 此氣陶然
平市三丁目
上總屋商店 電話七三一番

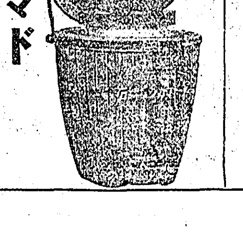
絶對安心確實ナル
シンガーミシン販賣
絶對に故障がなく糸の調子も良く無料で教授を受けて永久に使用せられ責任保証のミシンは安心して買へるシンガーミシンである
ミシンはシンガーに限る
平市田町
シンガーミシン會社
石川ミシン商會
家庭用ミシン職業用ミシン
月賦大販賣 見切中古ミシン
部分品修繕 金融賃貸交換
（カタログ定價表進呈）

産科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二
病室増築、手術室完備
往診隨時 平市新川町【電話三六九番】

恐るべき悪疫防止に
安全、確實な内服ワクチンを
おすゝめ致します
三共製 チフス内服ワクチン
大人（一人分）二〇セン　小兒（二人分）
――十五歳以上の方から大人の量です――
三共株式會社製品總代理店
西村屋藥局
平市本町二丁目 電話三番

◎◎如何にして成金になつた？◎◎
日支事變は國力の大發展であり我經濟界の一大飛躍期であります。事業の擴充、財界の膨脹期に於て、苟くも株式界に雄飛せんとせらるゝ方は、眞に千歳一遇の絶好期であると同時に、相當の危險もあることと思はれますので、當事務所は各位の危險を避け御成功を希望する爲め過般來數ある法則や卦線學を檢討吟味いたしました結果、茲に株式相場の波動原理と必勝相場術なる窓法書を推奨する次第であります。御希望の方には御申込次第お分ちいたします。
平市四丁目三十三番地
富岡事務所 電話二五八番

石綿ムシカマド
實用新案 第一八七四三〇號
意匠登録 第六六一六七號
石山式
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保温力が強く堅牢で火の元絶對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。



和洋銅物 金物問屋
平市五丁目
㊅釜屋商店

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
内務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

向背を注視される 今後の團体客取扱ひ
休止期間は四月一ぱい
平驛昨年の成績は百十組一萬圓餘

鐵道當局が刻下の事業運營三十九錢中、五月が全年の上來る四月一ぱい（三月末二分の一以上に相當する大迄は誤り）迄團体客の取扱下六百四十八圓五十九錢をひを休止する旨既報の如くふめて居り、從此同月中に右期間滿了後直に正常に復於ける團体客取扱ひ方針の歸するか或は更に之を延長向背は鐵道收入にも相當のするかは、恰も旅行季節に影響を齎らすわけである入るので相當關心を以て迎へられてゐる。而も昨年中平驛で取扱つた團体數は

月	件數	人員
一	一	三〇
二	三	一五三
三	五	三六一
四	一〇	六六七
五	三三	二、八八三
六	一七	二、七二一
七	二三	一、五九四
八	四	三七一
九	三	一七七
十	七	五三四
十一	二	二七六
十二	二	九〇
計	一一〇	一〇、八五七

でこの金額一萬千二百十圓

日立見習職工 合格者決る

さきに平第一小學校で試驗が行はれた日立製作所の見習工合格者は左の如く決定した、合格者は二十四日午前同所海岸工場へ出頭することになつてゐる

（平紹介所扱ひ）緒狩至郎 高田義秋 今泉忠良 森武雄 谷津田四郎 若松留雄 中村善直 林清一 坂下武 坂下秀雄 猪狩粂治郎 四栗善助（湯本紹介所扱ひ）山崎一雄 飯島勇次 五十嵐管藏 岡部一次 佐藤源治

民友從軍記者 市野記者歸郷講演
湯本と平二ケ所で

福島民友新聞市野從軍記者は二十日午前九時から湯本町三函座で開かれる湯本、小名濱外六ヶ村聯合男女青年團總會並に同日午後一時半から片倉磐城製糸工場で講演する

同僚を刺す 鳥小屋喧嘩

赤井村畑子澤坑夫古白義夫（三六）は去る鳥小屋の夜同僚石塚市太郎（三〇）と喧嘩、ツルハシで市太郎の左腕を刺し要三週間の傷を負はせ平署の取調べを受けた

戰線の「父を戀ふ愛兒」
私の胸はいつぱい 慰問日に咲いた佳話

既報、國民精神總動員强調週間遺家族慰問デーの昨十七日一匿名氏が金十圓に添へて市役所に寄せた手紙は左の如くいとしの父を戰線に送つたその子達の身を思ふ純愛の溢れたもので市役所吏員も思はずホロリとさせられたといふ、以下全文

コトンと音する夜中にも父ちやんの歸りか?と眠る?母を叫び起すと云ふ頑是なきお子達の父待つ詫びしさを思ひます時どうしてこのいじらしいお子達をお慰めしてよいやらいつも私は或る焦躁にかられます、今日丁度その慰問日、同封致しました金額は誠に輕少では御座いますが自分の働いて得ましたお金です、其のお子様方を慰める何かにおつかひ頂けましたら自分のこの氣持を汲んで頂けると存じます

銀も黄金も玉も何かせむ優れる財子にしかめやも

ラヂオに、新聞に、全神經を戰地の夫の上に！戰地の息の上に！そゝぎ居らるゝ留守宅の皆様の御心中を思ひやりつゝこの歌をラヂオに聞く時私は夜業の手をおきひとゝきはふりおつる涙をどうする事も出來ません、子を持つ親の肝に銘ずる名歌名曲ではあります。戰地にある勇士の皆様方もさぞ愛兒の寢顏、見たうなつだ事で御座いませう

千人近い受驗者中 合格は五十數名
鐵道員たる難い哉

過般水戸、平の二ヶ所に於て執行された鐵道傭員採用試驗の受驗者二千六百人中第一次合格者四百人（百分比一五八三八）に對する人物考査は來る二十五、六日頃平驛樓上に於て執行さるるが採用數は結局百五十名位で最初の受驗者數に對し百人に五人七分六九と云ふ極めて低い割合で同試驗の突破が如何に困難なるかが窺はれる。因に平に於ける受驗者九百五十二人に就き前記の率で行くと合格者は恐らく之で計算した五十四人九二內外と見て大差ないと豫想されてゐる

平署大異動發令

今十八日附平警察署に左の如く大異動が發令された

平署次席 猪狩晃議 依願免本官
福島署警部 橋本延秋 平署へ
平署警部補 佐藤弘 命保原署長
警務課 花見勢八 任巡査部長、平署へ
郡山部長 平塚喜代助 平署へ
若松部長 坂本義夫 平署へ
平署部長 横田勝與 桑折署へ
平署部長 渡邊定藏 解巡査部長、矢吹署へ
平署部長 金子千代吉 依願巡査を免ず

。。。。横田部長赴任 桑折署に轉じた横田勝與氏は二十二日午前十一時十分平發で赴任

長瀬軍曹町葬

昨年十月二十五日第一線に散つた植田町出身兩角部隊軍曹長瀬忠彦君の町葬は來る二十一日正午から同町小學校で執行される

・「。。。鳥小屋で獻金 飯野村上荒川高等小學校一年坂本二郎君以下左記五君は鳥小屋で貰つた寄附金一圓六十一錢を平署を通じ獻金

坂本房雄、山崎照一郎、坂鈴木義雄、坂本富彌、坂本登

・。。。盗んで逃る 東京市淺草區光月町オートバイ曲乘團員自稱鈴木利男（三二）は去る十日郡山市鐵工業佐藤次孝方に泊つた際同人所有の現金三十三圓並にオートバイ附屬品二個（五十圓）を盗み取逃走、なほ同宿人の二十圓紛失も同人の仕業ではないかと佐藤から平署に搜索

・。。。改修工事地鎭祭 市內下平窪地內夏井川改修工事の地鎭祭を十九日午後一時から執行

この親にしてこの子
戰地からの送金に サト婆さんホロリ

上遠野村瀧榊田サトさん（五三）の一人息上等兵勝君は目下皇軍の第一線に活躍してゐるがサトさんは伜の留守中たゞ一人で農業を營んでゐる健氣なおばあさん、可愛い〳〵伜の身を案じ『さぞ戰線では小遣ひに困つてゐることだらう』と先程小遣ひ錢を蓄へた金十圓を送つてやらうとしてゐた矢先き、反對に戰地の勝君から……戰地では小遣ひはいりません、これはそれを蓄へたものですから蓄しのたしにして下さい、おからだをお大切にとの親を思ふの情切なる手紙に添へて金十圓を送つて來たのでサト婆さんも感泣早速その金を神棚に上げてひたすら伜の武運を祈つてゐるとか

助役試驗

水戸運輸事務所管內助役試驗は明十九日同事務所で行はれるが地方からの受驗者は平驛から四名、綴から二名である

獻金

市內田町中島義男氏は亡父の葬儀費用を節約金五圓を、又第四小學校六年生和田榮君外八名で金一圓を何れも市役所を通じ恤兵金寄附

債券魔横山に拘引狀
けふ身柄收容さる

債券魔横山久（二六）は引續き平署で取調べられてゐたが一段落を告げたので昨十七日身柄を送檢、今十八日口豫審判事の拘引狀によつて平刑務所に收容された

・。。搜索願 新潟縣南蒲原郡加茂町日雇業吉澤平次郎（六六）は昨年十月十二日以來行方を晦してゐるが同人長男濟四郎君は目下第一線に活躍してゐるので捜して欲しいと親戚一同から平署へ

先づ管內で筆頭
專賣局平出張所の煙草賣上高

煙草專賣局平出張所は既報の如く一月から郡山專賣局管轄となつたがその賣上高は管內の筆頭で福島がこれに次ぎ第三位は若松、喜多方の順である

同出張所去月中の煙草賣上高は〆て九萬二千百四十三圓で昨年同期に比し二萬一千圓の增、これは郡山專賣局管轄となつて植田、勿來方面まで販賣區域が擴張された關係でこの分で行けば本年度總賣上高は百十六萬圓を突破すると觀られる

賣上の最高は依然バットの四二、八〇三圓、この外朝日七、一六三圓、曉六、一四一圓、錦五、三五一圓、なでしこ一四、三五〇圓で主なるもの

なほ口付『錦』は松川葉で作つた純本縣産、大に愛用されたいとの事

第一學藝會 成績品展も開催

平第一小學校の學藝會は既報の如く明十九日午前八時半から同講堂で開催、午後二時から受驗兒童の父兄懇話會を催し、尙ほ十九、廿日の兩日は兒童成績品展覽會を催し公開する

總務部長視察

眞崎本縣總務部長は一昨十六日來平、昨十七日は大浦村に向ひ磐城セメント工場を視察、同夜は市內住吉屋本店に一泊、今十八日歸廳した

陣中を聽く
（91）

日本娘に生れたお蔭 晴れの南京一番乘り
平產看校出身 石田みさ君（通信）

—私共は病院船として日本婦入としても南京一番乘りを致しましたので其の梗概を御通知申上げませう

先づ船は〇〇を出ますと此處より南京迄は赤土を溶かした樣な濁流の揚子江を遡ること八五哩で江陰の港に達します。此所を距る約二〇哩下流地點は口門と稱し巾五〇〇米位の極く狹い處で、支那軍は古い軍艦や商船を沈め機械水雷などを布設して閉塞を實施したので御座います。それを我が海軍の掃海作業によりまして交通路は開けたので御座いますが、尙ほ煙筒の頭や檣が見えました。此の邊から周圍の山々が見え始めました。最高八〇米るの事で御座います。川に山に如何にも日本內地の風景に接する樣な感が致しました。それらの山々には多數の砲台を築き、今尙は三〇糎位の砲が澤山見えました。尙ほ遡航に伴れ敵の最新式大の軍艦寧海が我が飛行機の爆擊に會ひ大穴をあけられて半ば沈沒したのをはじめ、其他の軍艦や汽船で江岸に坐礁せるものが數多ありまして、如何にも敵の狼狽した樣が見受けられました。又途中には英國旗を揭げた澤山の汽船が航行禁止の託宣を頂戴して集合し、自由に航行する我らの姿を恨めしさうに眺め居るが異に痛快で御座いました。尙は遡航五〇哩にして鎭江の要塞に到着致しました。此の郊外山麓には敵の水雷學校がありましたが現在は我が海軍の何かに使用されてあります。その直ぐ後の一〇〇米位の山上にも無多の砲台があり、これに通ずる通路は三個所の隧道があり、道口も微かに見えました。此の港は昔し阿部仲麿が滯在したことのある有名な金山寺がありまして、七重の塔も高く冲天に聳へてゐます。更に上ること三〇哩して隋の煬帝が掘鑿した北東に達する運河があり、其長さ一三〇〇（支那里）役夫百萬人を要したと云ひます。今尙は舟航の便があり津浦鐵道の未だなかつた時代に於ける唯一の交通路であつたさうで御座います。即ち揚子淮水（山東の南）淮水黃河、黃河々衛定河と通じて居りまして昔から支那の事業の雄大なのは一驚の外ないと部隊長殿が仰有つてゐらつしやいます（未完）

舊正月十九日 土曜 新二月十九日
壬午 友引 定 胃宿

十九日（小名濱測候所發表）
滿潮 前七、〇五 後七、五〇
干潮 前一、〇〇 後一、三〇

運勢判定 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷本部 神誠館

▲一白 正しき道に入りなば何所までも進んでも吉▲二黑 他に心をちらさず地味に働けば大吉日なり▲三碧 手落の生じ易き日けい約束又取引上尤も注意▲四綠 心せざれば禍は足許より出づべし病難注意▲五黃 氣をそろへ根氣よく働けば大吉日と成るべし▲六白 小利にあくせくせず永遠の大計を立つるに吉し▲七赤 不遇は自ら招くこと多し油斷は大てきと知れ▲八白 運氣次第にばん回する日我じよ正しく進むべし▲九紫 右とも左とも容易に決斷の付かぬ迷ひの日

恐るべき中風、腦溢血を遠治せしむる
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。
アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠（八日分）貳圓 四百八十六錠（廿七日分）六圓 千八百錠（百日分）貳拾圓
專賣店 山野邊藥局 平市五丁目（電呼六六八）

平みやげ 米やの最中
最中の御進物は、最中專門へ御用命下さい。各種取揃へて御客樣を御待ち致して居ります。
平市五丁目 米屋最中專門店 電話（呼）二九〇番
ソセイナンヨー散 南洋蘇製社平代理店

良い電球は 眼の護り
國產 トウランプ
東西會社の新商品 石鹸 齒刷子 齒磨 連鎖店にあり

根本 平市南町 產婦人科 電三一四

酒とマツイ おでんの繁ちやん 平市田町花ノ里 電話三三三番

簡易金融 磐城無盡 趣味ノ貯蓄 出張所縣內各町

旅館 大手舘
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄 電話下谷(83)六七七番
東京上野驛前 下谷郵便局横通角

耳鼻咽喉科專門 平市南町一六番地 大和田醫院 電一七〇番（入院室完備 病院隨意）

日本石油株式會社特約店（ライジングサン石油株式會社重油特約店）
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
關彰商店平支店
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番 茨城縣久慈町 電話一三七番 茨城縣多賀郡關本驛前（電大津一四七番） 福島縣四倉驛前（電平潟五四番） 福島縣小名濱町 電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱）
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所 電話八二四番）